

戸田康之さん『ろう児童の遊び』（5月9日配信）

こんにちは！戸田です。よろしく。

今日は、ろう児童の遊びというテーマでお話します。

ろう学校で教師をしています。3歳4歳5歳の幼稚部を担当しています。子どもたちからは毎日いろいろな遊びが出てきます。やはりろう児なので、耳ではなく目を使った遊びが癖づいています。遊び方も聴者の児童とは異なることが当然あります。目を使った遊びを子どもたち自身で考え工夫している様子がうかがえるので良いことです。その中で、良いと思った例をお話します。

子どもたちから自動販売機を作りたいと話がありました。あの、ジュースとかを買う自動販売機です。実物大を作りたいと言うのです。わかった先生たちも手伝うと言い、段ボールの大きいものを用意すると、子供たちは大喜びです。段ボールを切り抜いたり、ジュースの絵を描いたり、取り出し口を作ったり、硬貨投入口を作ったりしています。実際の自動販売機がしっかりイメージできているんですね。大きいものを一所懸命に作っています。ジュースやペットボトルも作ります。コーラやオレンジジュースなど色分けして作ります。自動販売機の裏から落とすと取り出し口に出てくる仕掛けです。子どもが考えました。完成後は、みんなで一緒に遊びたいので庭に持っていきます。大きい自動販売機をせっせと運び設置します。ほかの児童も興味津々です。買うにはお金がいると言えば、各自でお金を作って自動販売機に買いに来ます。お金を入れて、絵のボタンを押すとその商品が取り出し口に出てくるようにしたいのですが、当然ジュースを落とす人は自動販売機の裏にいます。聴者であれば、ボタンを押すときにコーラなど希望商品を声にすることで、裏の担当者に伝えることができます。オレンジジュースでも同様で、声にすることで商品を出すことができると思っています。声と耳を使っているのだと思います。では、ろう児はどうするのか。自動販売機が小さく目を合わせられれば問題ないのですが、実物大と大きいので裏の担当と目を合わせることができません。もし、声を出してもろう児はわかりません。どうするのか、先生は手を出さず子どもの様子を見守ります。すると、方法を思いつきました。買う人とジュースを落とす担当との間、つまり自動販売機の横に1人立ったのです。買い物客がどのボタンを押したのかを確認し、裏の担当者に手話で伝えているのです。どのようにしたら遊びが成立するのかを自分たちで考え、目と手話を使用し成立させることを子どもたち自身で自然に工夫できるのです。先生が言わずとも子どもたちだけで考えることができるなんてすばらしいですね。ろう児の遊び方の工夫があるんです。聴者の子どもとは違うろう児の遊び、発想は本当におもしろいです。